

危機の中にある都市

2019年12月7日(土)・8日(日)
東京大学本郷キャンパス 工学部1号館

都市は危機の中にあるはずだが、日常の眩しい光の中で、忘れ去られたように、今日も地域は計画され、都市は設計され、さまざまな政策は其処彼処で遂行されているだろう。しかし一旦災害がおきれば、あっという間にそうした日常の風景は奪われ、人々は傷つく。阪神淡路大震災、中越地震、東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨、各地で歴史の中で繰り返されてきた災害に際して、地域は存亡の危機に直面し、当たり前の政策・計画・設計が通用しない過酷な状況に陥る。そんな中、私たちに何ができるだろうか。

自らに向けた問いを更新し続けながら、傷ついた地域に踏みとどまり格闘を続ける実践者と、長い時間、災害と地域の営みの機構解明に取り組む続ける研究者が、互いに向き合い、自らの取り組みをもとに、分野や立場を超えた議論を徹底的に行うこと、そのことによって、来るべき巨大災害と常態化する地域の危機の解決と復興に向けた知見の体系化を行うこと、その推進のための実践的な研究者と実践者のネットワーク構築を目指して、復興計画デザイン会議の第一回全国大会を、ここに開催します。

主催：復興デザイン会議全国大会実行委員会 / 事務局：東京大学復興デザイン研究体



実行委員長

原田 昇
復興デザイン会議全国大会第一回が開催され、復興デザインの研究者、デザイナー、実践者らが集い、その活動の輪を広げる機会を持つに至ったことを大変に嬉しく思うとともに、今後の発展に期待します。

経歴 1983年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了、工学博士。計画計画研究所研究員を経て、1985年より東京大学工学部助教、同助教授、同准教授を経て1999年より新領域創成科学研究科教授。2005年に工学系研究科教授に異動し、工学系研究科長、東大副学長を務めた。GLAFS、まちづくり大学院、復興デザイン研究体などの教育活動に貢献。専門は都市交通計画。豊田都市交通研究所長、日本交通政策研究会代表理事、国の審議会委員、学会の理事を歴任。

各セッション登壇者

姦浦 道生 東北大学
復興はさまざまな制度的条件により変化するという問題意識のもと、より良い空間的復興に導くための計画・事業・規制等の制度やその内容について研究しています。

佐藤 嘉洋 熊本大学
現場の課題に対し研究はどうか役に立てるのか。復興への思いを共にする方々へのフィードバックを常に意識した協働を大事にしていきたいと考えています。

日野 雅司 SALHAUS 東京電機大学
建築設計は直接の利用者に近い立場でデザインを行うことが多く、災害復興においてその役割・能力が必要とされていると感じています。

益子 智之 早稲田大学
国際的な復興デザイン研究では、各国の復興に関する原則と基本方針を歴史的展開の中で把握し、各被災地域で試行された方法を的確に捉えることが重要であると考えている。

審査委員

田島 芳満 東京大学
田中 貴宏 広島大学

廣井 悠 東京大学
円山 琢也 熊本大学

大会実行委員

井本 佐保里 日本大学

基調講演

伊藤 毅
東京大学の社会基盤学・都市工学・建築学の垣根を越えて誕生した復興デザイン研究体には、新しい時代のとびらを押し開くようなエネルギーが充満しており、傍目にも眩しいかぎりでした。このたびの全国展開はそのセカンドステップ。一ファンとして今後の活動を期待とともに見守ってゆきたいと思います。

経歴 1984年より東京大学工学部建築学科助手、同助教授を経て、2000年東京大学大学院工学系研究科建築学専攻教授。2018年青山学院大学総合文化政策学部教授、工学博士。専門は都市建築史。主著に『日本都市史・建築史事典』(丸善出版、2018年、編集代表)、『危機と都市』(左右社、2017年、編者)、『町屋と町並み』(山川出版社、2007年)、『都市の空間史』(山川弘文館、2003年、建築史学会賞)他。2012年、建築学会賞(業績)受賞(吉田伸之氏と共同受賞)。

赤川 俊哉 株式会社オオバ
復興には、被災者も支援者も常に行動と行動に責任をもち、被災者に対して優しさは罪。厳しさは現実。そして復興は希望であってほしいと常に思う。

大津山 堅介 京都大学
復興のデザインによって潤う人々はいらぬのか、隅々までデザインしうるのか、デザイナーと被災者との分断は不可避なのか、議論を深めたいです。

鈴木 さち UNESCO
大規模災害からの復興では、社会の中核的な主体の能力や資源を柔軟に活用するようなデザインが必要だと思います。

藤賀 雅人 工学院大学
「復興」デザインは、被災者の住宅「再建」と生業「再生」のためのプロセスデザインであり、次の社会を見据えた試行でなければならぬと感じています。

Richard Martin Rinen University of the Philippines
Understanding disaster prevention particularly flood mitigation starts with learning from past experiences. History should not repeat itself. We should always look for better ways in order to achieve a goal beyond just recovery. We must exceed all expectations. Thank you.

秋田 典子 千歳大学
大月 敏雄 東京大学

徳永 幸久 国土交通省
折澤 麻利 SALHAUS

宮城 俊作 PLACEMEDIA 東京大学
森脇 亮 愛媛大学

小川 紀一郎 アジア航測株式会社
小田 秀樹 復建調査設計株式会社

基調講演

佐藤 慎司
東日本大震災をはじめ、復興を議論する必要がある災害が頻発しています。復旧と復興の違いのひとつは、人間の心理学的な側面を中心に据えるかどうかであると思います。建設系分野が中心となって、復興をデザインする総合型の学術を創成していく必要があります。

経歴 高知工科大学システム工学群教授。専門は、海洋沿岸部の復旧、地形機構の解明と環境保全、津波高潮の防災対策など海洋工学全般。著書に『海岸線の創造に向けて』(共著・土木学会)、『沿岸施設設計概論』(共著・土木学会編)、『東日本大震災の科学』(共著・東京大学出版会)など。東京大学工学系研究科土木工学専攻修士課程修了後、同大学助手、横浜国立大学助教授を務める。建設省土木研究所河川部海洋研究室主任研究員、室長、東京大学教授を経て、現職。

乾 久美子 乾久美子建築設計事務所 横浜国立大学
復興は通常とは違うプロセスをふむプロジェクトが多くなるように思います。そこに可能性を見いだせると素晴らしいと思っています。

菊池 雅彦 国土交通省
復興に携わり知見の体系化と継承の必要性を痛感しており、この復興デザイン会議が研究・実務・行政を結び、次の復興の礎になることを期待しています。

千葉 学 東京大学
復興において建築家に必要なことは、実は日常性の中でも変わらないと思う。当事者意識を支える豊かな想像力、建築を取り巻く人、経済、社会、環境に対する解像度の高い観察力、それに尽きる。

本田 利器 東京大学
復興デザインは、復興から百年を超えて続く社会を創るものなので、未来に対する責任を負うという覚悟で最善を尽くすことが必要なのだと考えています。

Richard Martin Rinen University of the Philippines
Understanding disaster prevention particularly flood mitigation starts with learning from past experiences. History should not repeat itself. We should always look for better ways in order to achieve a goal beyond just recovery. We must exceed all expectations. Thank you.

窪田 亜矢 東京大学
小林 祐司 大分大学

内藤 廣 建築家 東京大学名誉教授
羽藤 英二 東京大学

山口 敬太 京都大学
渡部 英二 東京建設株式会社

小野 悠 豊橋技術科学大学
柴田 純花 東京大学

12月7日(土)

9:00-12:30 U-30 復興デザインコンペ 公開審査会・作品展示討論会

9:05 作品展示討論会(ポスターセッション)
10:30 最終プレゼンテーション
審査委員 内藤 廣 宮城 俊作 姦浦 道生 千葉 学 折澤 麻利 羽藤 英二

13:30-14:30 小さな学びの復興 建築家の復興デザイン

乾 久美子 「土木との協働により小さな風景を取り戻す」 釜石市立唐丹小学校・釜石市立唐丹中学校・釜石市唐丹児童館での試み」
日野 雅司 「陸前高田市立高田東中学校の復興プロセスと建築家の役割について」
司会：千葉 学

14:30-15:30 復興現場の政策論 実務家による復興デザイン

姦浦 道生 趣旨説明 「住宅復興の全体像と被災者の意向変化」
菊池 雅彦 「被災者支援の枠組みとその背景」
赤川 俊哉 「山元町における被災意向の把握」

15:45-16:45 U-30 復興デザインコンペ 公開審査会・表彰

16:45-17:45 基調講演「都市史と復興」 伊藤 毅(建築史・青山学院大学)

18:00-18:45 研究論文部門 / 政策・計画・設計部門 表彰式

1日目終了後、懇親会 ※会場内・立食形式で実施いたします。(参加費：一般2,000円、学生500円)

会場 東京大学本郷キャンパス (東京都文京区本郷 7-3-1) 工学部1号館15号教室
※ポスターセッションは、2階社会基盤学専攻演習室で実施します。

資料 大会関連資料 URL http://bin.t.u-tokyo.ac.jp/dss/publish_symposium_1.html
※右QRコードからも大会関連資料を閲覧可能です。
※その他の大会情報は、大会HPやTwitterをご覧ください。
http://bin.t.u-tokyo.ac.jp/dss/symposium_1.html
[twitter @UT_ReSU](https://twitter.com/UT_ReSU)

工学部1号館内案内
1階 15号教室
2階 社会基盤学専攻演習室
正面玄関

編集・発行 復興デザイン会議全国大会実行委員会
〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学工学系研究科復興デザイン研究体 / TEL. 03-5841-1672

